

Case 3

地元業者と区民との連携が大きな力に

地域愛が生み出すパワー 台風によるゴミを撤去

写真は令和元年の台風 15 号、19 号による被害状況とその災害復旧の様子です（外浦、柿崎、田牛）。地元区民の方々のご尽力はもとより、業者の方々の類まれなる技術、地域を愛する心によって海の景観は守られています。

このように、ボランティア活動はもちろんのこと、地元業者の力も合わせ、みんなの力が結集して下田の景観は形作られています。



上写真／台風の後、砂浜に大量の木やゴミが散乱している外浦海岸の様子
下写真／シャベルカーなどでゴミを片付け、元の状態に戻った砂浜の様子

Case 5

観光客が通るアプローチを田牛区が清掃

訪れる観光客のために 草刈りなどの清掃作業

長年、田牛の玄関口にあたる吉佐美～龍宮窟までの間の法面の草刈り、側溝の土砂挙げなどの清掃活動を献身的に取り組んでいます。

「多くの観光客が訪れる田牛の玄関口の道路が草で覆われていては田牛に対して良いイメージを持たない」「観光客が気持ちよく過ごすには清掃が行き届いていなければならない」という気持ちから奉仕活動をされています。

上写真／トンネルの中の歩道にたまった砂やゴミを撤去
下写真／道路脇の草などを刈り取り、視界を良くする



Case 4

柿崎松陰会の清掃活動と子ども育成活動

清掃活動だけでなく、 港周辺の整備から考える

柿崎松陰会では、海が汚くなると魚が捕れなくなるという生活上の切実な思いから清掃活動を平成 18 年よりスタート。さらに、子ども達が海のこと、自然のことを知らないと感じ、櫓漕ぎ体験など活動の幅を広げていったといいます。

「港周辺の整備をする際、予算が配分されたから執行するのではなく、海のことをもっと勉強してから行ってほしい。図面上だけ、便利さを求めるだけでは駄目だと思う」と代表の植田一二三さんの思いは熱く、「堤防を作ってしまったがために海流が変わってしまい、泥が海底に溜まってしまって湾内が浅くなったり、貝などの生物がいつか生息できなくなったりする」「手間はかかるが、下手に自然をいじくったりせず、お金をかけずにできる方法があるはず」「いつかの清掃活動では意味がなく、継続して行っていくことが必要」などと語っていただきました。また、「柿崎の湾内は波が静かで穏やかなので、櫓漕ぎ体験に向いている。子供会の参加者などに楽しんでもらっているが、今後は櫓漕ぎの一流の指導者の確保が必要になってくる」「柿崎湾内は手軽に海の体験ができるという意味で日本一のスポットだと思っている。現在は、開設されていない柿崎海水浴場を復活させ、新たなマリンレジャー、マリンスポーツの拠点として整備できるよう、引き続き環境美化と人材育成に努めていきたい」と意気込みを述べました。



海岸に流れ着いたゴミを拾い集める子どもたち



櫓漕ぎ体験を通して、海のことについて学ぶ子どもたち

まとめ

多くの人々が海と関わりを持って生きています。 未来の下田の海を守るために何が必要か 一緒に考えていきましょう

下田まち遺産は風景だけではなく、「人の暮らし」が重要な構成要素の一つです。

海が汚くなったら、生物が住みにくい環境となり、漁が出来なくなってしまいます。だから漁業関係者、地元区民の方々は生活のために海を美しく保ちます。そして、海が美しいから、みんな様々な形で海を楽しみます。海水浴、釣り、サーフィンなど無限の楽しみ方がそこにはあります。その素晴らしい楽しみを提供してくれる偉大な海とともに、下田の人々は昔から生活してきました。

様々な恵みを与え、ときには自然の厳しさを教えてくれる海。その景観は生活に直結しない人々も含め、有償無償に関わらず多くの方々の海を愛する心によって守られています。

今後、未来にこの下田の海を継承していくため何が必要なのかもう一度みんなで考えてみませんか。



※今回紹介したケース以外にも多くの方々が下田の海を守る取組をされています。景観担当の取材不足やページの限りもあり、広く皆様にお伝えすることができなかったことにつきまして、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。